

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400865		
法人名	有限会社 エーアステス		
事業所名	グループホーム Myほ〜む童里夢		
所在地	札幌市西区西野2条1丁目2番1号		
自己評価作成日	令和元年12月23日	評価結果市町村受理日	令和2年2月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0170400865-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和2年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が毎日の生活を生き活きと笑顔で過ごせるように、コミュニケーションの取り方や他関わり方を工夫しています。又、日常的にラジオ体操やレク活動を通して他入居者様とのふれあいや寝たきり防止等に努めております。
ホーム内の掲示物等においては、四季折々の行事等をテーマに変更して都度入所者様に作成して頂いております。毎年恒例で夏になると民生委員の方が蛍を虫かごで持って来て下さり、夜に電気を消して鑑賞し各々楽しませております。
ご家族様には安心して頂けるように状態の変化があれば、管理者又は介護支援専門員よりご連絡させて頂き、個々にあったケアや対応を実施しております。今後も入居者様やご家族様と信頼関係を構築しながら日々笑顔で過ごして頂けるように日常のケアを実施して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はバス停から近く、住宅地に立地している。周辺は、回転寿司、ドラッグストア、商業施設、病院等があり、生活に便利な環境にある。併設の有料老人ホームとは、合同避難訓練や、事業所の利用者が馴染みの知人を訪ねたり、老人ホームの職員からおやつの時間に招待されるなど、老人ホームの方々とは、地域として交流がある。居間からは、琴似寒塞川や遊歩道、桜並木等が眺められ、四季折々の風景が間近に感じられる環境にある。利用者の高齢化や介護度が進み、地域と日常的に関わることは困難になっているが、民生委員の好意による蛍の観賞会や近くで開催される盆踊り見物、長沼の農園でのサツマイモやトマトの収穫作業、その後の外食は恒例行事になっている。家族の面会も多く、利用者を共に支える態勢を築いている。職員は、介護福祉士など有資格者が多く、持てる力を発揮しながらも初心を忘れず、利用者に寄り沿ったケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や組織については内部研修を通して行い、統一した介護を目指しております。	入社時には、理念を踏まえた研修を行い、運営やケアの基本姿勢を伝えている。事故やヒヤリハットが生じた時は、ケアの原点である理念の再確認を促すなど、職員の共通理解に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加会いながら交流を深めております。又、運営推進会議を通してグループホームへの理解や協力を得られるように努めています。	地域密着型事業所として、地域との交流は大事にしている。職員は、町内の新年会に出席、近くで行われる盆踊りには、車椅子の利用者も手踊りをしながら見物している。住民の事業所見学や相談には、快く応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事の際に入居者様の状況を説明し、認知症の理解や支援の方法について共有しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況報告やサービス状況、取り組みなどを報告し、サービスの向上に努めております。	会議は、複数の町内会関係者や家族に加え、行政の出席を得て定期的に開催し、事業所の現状報告後に、議題に沿って協議している。行政や地域の情報、家族の要望等を運営の改善に生かしている。メンバーの民生委員の好意による「蛍の観賞会」を利用者は毎年楽しんでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修や管理者会議及び疑問確認の電話や来庁などで官公庁の職員と連携を図っております。	各種報告や申請書類の提出時は、代表者が各窓口に出向いたり、郵送後に電話で話し合っている。それぞれの担当者とは馴染みの関係にあり、市の管理者連絡会での研修や情報提供等を、運営に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部外部研修を通して全職員に身体拘束禁止を徹底していると共に、非代理性などの3項目についての理解を徹底しております。	身体拘束や虐待をしないケアの徹底を図るため、指針の整備、適正化委員会の定期的な開催、外部研修後の伝達講習、都度の勉強会を行い、議事録を整備している。センサー使用時は、家族に説明し、同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	状況同様に監修を通して、全職員に周知して行っております。適度な距離を保ち馴れ馴れしい態度や言葉にならないように注意を払っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解し、個々の代弁者としてなれるように、それぞれの権利を理解して行きます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には契約内容、重要事項について十分な説明を行い理解、納得して頂いてから契約を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族様の面会地頭に意見や要望を伺っております。その際に答えられるように職員間で話し合いながらサービスに反映させて頂いております。その場で答えられない場合は、持ち帰り検討することを伝えて次の折に説明させて頂いております。	利用者や家族から運営に対しての意見や要望は殆ど聞かれないが、運営推進会議では、家族の意見が得られている。要望により、認定調査時に同席する家族がいる。利用者の日常は、面会時や手紙、ホームページで伝え、遠くの家族には好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にカンファレンス兼ミーティングを開き、運営内容に関する話し合いや入居者様の状況を検討し、情報を共有して職員の意見や提案を聞く機会を設けております。	代表者や管理者は、日々の業務や月1回の会議、個別の面談等で、職員の意見や提案、個人的な要望を受け止めている。利用者の担当職員としての役割はあるが、業務全般は職員全員で行うなど、持てる力を発揮できる環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状態を把握し、コミュニケーションをとり、報告・連絡・相談がしやすい職場環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促し、研修後は他職員へ伝え職員全体のスキルアップ出来るように働きかけをしています。又、毎月内部研修を開き、介護の知識等を深める要な場をつくっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会など地域の集まりに積極的に参加し、交流する機会を通して多角的視点でサービスを行えるように取り組んでおります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員から積極的に信頼関係を築けるように声掛けなどコミュニケーションを図らせて頂いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階から相互に話し合いを十分にを行い、意見や要望のヒアリングを行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークからアセスメントを行い、心身ともに入居者を理解し、必要サービスの低ky法を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を家族と想い、入居者の気持ちや考えを大切に共に過ごしております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の要望や状況を把握し、ご家族に報告をして情報を共有する事でともに入居者を支援していくように努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の来訪も多く、ご本人様やご家族様がともに安心して過ごせるように働きかけを行っております。	利用者にとって馴染みの方の面会を歓迎している。併設の有料老人ホームに出向く利用者もいる。盆踊りや、長沼でのサツマイモやトマトの収穫、蛍の観賞会は、利用者にとって昔懐かしい記憶の再現行事となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆ど入居者がリビングで過ごされており、お互いがそれぞれ認識して頂けるように場の提供を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してよい関係を築けるように付き合い等を行っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動から入居者様個々の希望を理解し、職員間で情報を共有しております。職員のみでは困難な事柄については、ご家族様や地域の方々も含めて可能な限り希望に添えるように支援致します。	利用者の表情や動きなどから、心身の状態を見極めたケアを心掛けている。全ての言動は原因があることを念頭に置き、利用者にとって心地良く暮らせる支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご本人様やご家族様より入所前の生活について十分なアセスメント等を行い、それに添えるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活歴を考え、それにあった日常生活を送り、ストレスを可能な限り感じることなく過ごせるように心がけております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の希望・要望をもとに、カンファレンスにてケアを中心として意見やアイデアを出し合いながらケアプランの作成を行っております。	月1回、担当者によるモニタリングが行われている。ケアプラン作成時は、利用者や家族の望む生活支援になるよう、更新前のケアプランの達成度、個別の記録、医療従事者の意見を踏まえた担当者会議が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様に対する記録などを個人ファイル等に記入し、職員間での情報の共有を行い、ケアプランの見直しに活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の事業所と連携を図り、入居者様やご家族様の状況やニーズに応じた支援を取らせて頂いております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事には声をかけて頂きながら、参加できる際は顔つなぎをさせて頂いております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の訪問診療を受けております。又、入居者様の指定医がある場合にはそちらを優先し、外部受診等を行っております。	医療機関は、利用者や家族の意向に沿って受診支援を行っている。協力医による月2回の往診体制を整備し、かかりつけ医への外来受診は家族対応としているが、困難な時は職員が同行しており、健康状態を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身共に変化が見られた際には基本は担当医に報告し指示を受けますが、日常気になる事は看護師に報告・相談しながら適切な処置等を受けられるように健康管理を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入居者様の生活状況等をお知らせし、安心して治療を受けられるように配慮致します。又、病院等の集まりには参加をしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	重度化や終末期のあり方については、出来るだけ早い段階で入居者様やご家族、担当医、看護師、管理者、ケアマネで話し合いをし、職員同士ケアの方針を共有する体制になっております。	入居時に、看取り支援に於ける指針を説明している。利用者や家族の要望と医療従事者の所見を踏まえ、職員間で方向性を確認している。状態変化時は、夜勤者を2人体制にして看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応等のマニュアルを作成し、応急手当については、看護師及び防災施設での訓練などを行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で定期的に避難訓練を行っております。又、運営推進会議にて避難訓練時期や経路等の報告をしております。	年2回の夜間・日中想定避難訓練は、併設の事業所と合同で行っている。消防署員の総評や職員の気付きを、次回の訓練に生かしている。お米や乾麺、水等は随時用意している。	火災以外の自然災害発生時は、近隣の協力を得る事は困難であることから、一時的屋内避難場所の確保、あらゆる場面想定を踏まえたシミュレーションや実践的訓練、備蓄品の充実、地域との防災対策強化への取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの生活歴などをフェイスシートを使用して把握し、人格を尊重すると共にプライバシーに配慮したケアを行っております。	適切なケアの実践については、代表者、管理者はもとより、職員間でも注意し合える関係にあり、意識統一に向けた取り組みが行われている。呼称は「さん」付けを基本とし、個人的書類は適切に取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現の大小、表情や態度等をくみ取り、その人らしさを引き出せるように心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日常生活の流れの大枠はありますが、入居者様の体調等に合わせて柔軟に対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用したり、1日3回の口腔ケア等、その場にあった服装等を心がけております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るところは手伝って頂いております。食事の形態に配慮しながら表情をみて食の好みを把握するように努めております。	食事は業者から届けられ、ご飯のみ用意している。利用者の要望への反映は難しいが、お盆にはお萩を用意し、おやつバイキング、出張寿司職人による生寿司、誕生日はケーキでお祝いしている。農園で収穫したサツマイモは焼き芋、ふかし芋、茶巾菓子に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の最低水分量を医師に確認し、最低水分量以上を摂取できるように支援しております。又、最低水分量を摂取困難な入居者様にはゼリーなどで水分提供を行っております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守りや介助にて口腔ケアを行い、残歯と歯茎の健康維持、義歯洗浄、うがいをしっかり行うことで、誤嚥性の予防につなげております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用して排泄パターンを記録し、オムツではなく、トイレでの排泄を行えるように支援しております。	自力でトイレを使用する利用者や、動作などからサインを察知し、トイレに誘導するなど、一人ひとりに応じた支援に努めている。布下着や衛生用品の活用は、職員から家族に提案して同意を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を行ったり、水分補給を促したり、トイレでの腹部マッサージなどで腸を刺激しながら自然排便につながるよう働きかけております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に応じて入浴を判断しておりますが、同じ間隔での入浴で安心しながら入浴を楽しまれております。	入浴は、同性介助の要望に応じ、週2回を基本としている。湯船の中で身体を温めている利用者や浴室を暖めてシャワー浴をするなど様々だが、拒否があれば時間差で声かけするなど、身体状況の確認と保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体調に合わせて休まれたり、夜は入居者様が好んでテレビを観られている際はなるべく合わせるようにしておりますが、あまり遅い時間ですと声掛けをさせて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬は薬剤師が管理しておりますが、お薬情報を元に全職員に対してお薬の用法・容量を周知しております。又、薬剤師とも連携を図りながら取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常のレクリエーションだけでなく、季節毎や行事にあったレクリエーションを提供し、楽しみや気分転換の機会を多く出来るように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外が暖かくなり心地よい気候になりましたら、外へ散歩に出かけるなど、気分転換を図っております。外出レクリエーション等がある場合は事前にご家族様から了承を得て、出来る限りご家族様にも参加して頂けるように声をかけております。	住宅街の庭の花々を眺めながらの散歩や地域行事の盆踊りの見物、近くの川縁にある桜見物、長沼の農園でサツマイモやトマトの収穫後に、外食して帰宅するのが恒例になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様に関しては、施設で管理しておりますが、必要物品などある際はご家族様に話をし必要に応じて支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がある際には、対応できるような体制を組んでおります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じ取れるように月々にあった装飾を行っています。	居間は、食事するコーナーと窓辺に設置した大小のソファがあり、利用者はソファに座り、テレビや新聞を見たり編み物をするなど自由に過ごしている。台所は居間と一体化しており、利用者を見守りながら食事の準備ができる。イチヨウ並木の風景を貼り絵にして飾るなど、季節感を大事にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際の座席や、リビングでの座る場所等は入居者様が好まれる席等をなるべく提供しておりますが、気負いがあったり周りの雰囲気です工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している家具などを配慮したり、イベントやメッセージカード・写真等を飾り、居心地よく過ごせるように工夫しております。	居室は6畳あり、それぞれ調度品や冷蔵庫、テレビ等が置かれている。家族写真や飾り物などが落ち着いた雰囲気を醸し出している。温湿度や清掃にも配慮がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の手摺りを使用して頂いたり、場所がなるべくわかるように要所ごとにプレートを貼っております。床にも余計なものを置かず安全に生活して頂けるように工夫させて頂いております。		